

**群桐グループ**

(群馬)

**一社完結型の廃棄物処理システムで未来を創る  
地域・人と共に成長を続ける環境企業グループ**

**大** 手重工業メーカーの  
藤元として発展して  
きた群馬県太田市。この北  
関東随一と言われる工業都  
市で独自の廃棄物処理シス  
テムを擁し、環境保全と循  
環型社会の構築に貢献して  
いるのが群桐グループだ。

「産業廃棄物の収集運搬か  
ら中間処理、最終処分まで  
をワンストップで担えるグ  
ループ体制が強み。これか  
らも常に情報収集に努め、  
新しいリサイクルの方法に  
チャレンジしていきます」

と語るのは、株式会社群  
桐産業の濱屋博社長。群桐



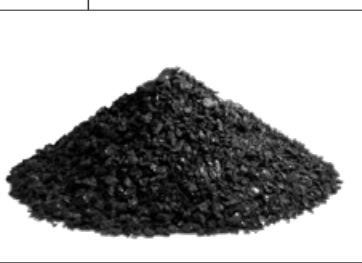
濱屋 博 社長

グループの本社・営業部門  
の機能を果たす同社の2代  
目社長として取引先や地域  
からの信頼、「群桐」ブラン  
ドの誇りを守り続けている。  
同社の創業は1984年  
11月。山口茂・現グループ  
会長が自動車の修理工場や  
ディーラー、ガソリンスタ  
ンドなどをタンクローリー  
で巡回し、回収した廃油か  
ら再生重油を製造販売する  
事業を開始した。「日本には  
油の井戸がない」と気づき、  
「リサイクルを突き詰めれ  
ば必ず事業が継続する」と  
予見したことがきっかけだ。

その後、山口会長は自ら  
先頭に立って仕入先や販路  
の開拓に奔走。やがて事業  
が軌道に乗り、会社規模が  
拡大していく中、他社との  
差別化を図るために廃棄物  
の中間処理を行う油水分離

施設と焼却施設を立ち上げ  
た。更に、全国屈指の溶融  
施設を建設して一社完結型  
の廃棄物処理を実現するた  
め、山口会長の長男で次世  
代を担う山口博氏を社長と  
して、10年前に株式会社エ  
コロジスタを設立。現在の  
群桐エココロ株式会社である。

6年前には、敷地面積約  
3万5000平方メートルの「群  
馬ハイブリッドクリーンセ  
ンター」が完成し、群桐エ  
ココロが施設の運営管理を担  
当。群桐産業が回収した廃  
油をリサイクル処理し、再  
生重油として販売するほか、  
全量リサイクル処理システ  
ムにより廃油以外の廃棄物  
を焼却溶融処理し、人工砂  
「サーブルオール®」を生産  
している。野立型太陽光発  
電所の防草材や建築資材な  
ど幅広い用途に普及が進む。



群桐エココロで製造販売する人工砂「サーブルオール®」



低濃度PCB廃棄物無害化処理システムの焼却溶解炉

そして、創業から主業務  
とする再生重油の製造販売  
人工砂の生産販売と共に事  
業の3本柱を形成している  
のが、低濃度PCB(ポリ塩  
化ビニフェル)廃棄物の無  
害化処理だ。国内では数少  
ない専用大型固定床炉を導  
入し、その処理可能サイズ  
はトップクラス。昨年3月  
には環境大臣認定を取得し  
た。ストックホルム条約に  
よって国内からの排除完了  
期限に定められている20  
27年3月31日まで10年を  
切った今、全国各地から続々  
と引き合いが集まっている。

**社会的地位向上に挑む  
女性管理職も積極登用**

近年は医療廃棄物処理の

くりにも好影響を与えてい  
るのが女性の活躍。総務経  
理だけでなく、営業のトッ  
プも女性が務める。現場で  
もドライバーやフォークリ  
フトのオペレーター、分析  
業務など各部門で女性が生  
き生きと働く姿が印象的だ。

「挨拶や礼儀作法だけにな  
く、細かいところに気がつ  
く女性ならではの視点が企  
業としての質を高めている

と思います」(濱屋社長)

この積極的な女性管理職  
の登用と定期的な新卒採用  
は低濃度PCB専用固定床  
炉の導入と共に、昨年度の  
群馬県優良企業表彰で、ま  
さに「商業・サービス部門」  
での受賞の要因となった。

**継承する「共に」の精神  
地元社員に感謝を還元**

そして先月、群桐グルー

プの飛躍を象徴する本部ビ  
ルが完成した。「黙っていて  
も、お客様が来るように」と  
いう山口会長の思いを形に  
した新拠点。6月21日には、  
地元の人々や同業他社の仲  
間も集い、この「群桐ホ  
ールディングスビル」の落  
成パーティーが行われる。

「会長が貫く『共に』の精  
神を継承しなければならな  
い。社員にも『自分だけ良  
ければよい』という考えは  
捨ててもらっています」  
こう濱屋社長が決意を話  
す背景には、忘れられない  
出来事が存在する。5年前  
の5月31日、人為的ミスに  
よって焼却施設内で火災事  
故が発生したのである。

事故当日の夕方、報告と  
謝罪を行うため、山口会長  
と二人で真っ先に向かった  
のは地元の自治会長宅。留  
守のために翌朝再び訪問す  
ると、既に自治会は会合を  
済ませて群桐グループへの  
意見を一致させていた。

「これまで通り、地域のた  
めに頑張ってください」  
会社を畳むことが頭に過  
る中での思いがけない答え  
に、就任直後の濱屋社長の  
目には自然と涙が溢れた。

「地元の方々に勇気づけら  
れ、社員たちに助けられて  
最大の危機を乗り越えられ  
ました。改めて『共に』の大  
切さを痛感しましたね」

と、目を潤ませながら振  
り返る濱屋社長。あの日の  
教訓を生かすため、群桐グ  
ループでは5月31日を「防  
災の日」と定めている。

毎年夏休みには、「太田市  
サイエンスアカデミー」の  
生徒を営業総出で出迎え、  
工場見学を開催。地元・敷  
塚町の一大祭り「やぶ塚か  
かし祭り」への協賛や車両  
の寄贈など、群桐グループ  
は地域社会と密接に関わり  
ながら「共に」歩んでいる。  
「社員は地域の方々から『親  
切だ』と評判です。今後尚  
一層相互理解を深め、更なる  
信頼関係の構築に努めたい  
と思います」(濱屋社長)(谷)

**【会社データ】**  
本社 群馬県太田市大原町  
78-1 群桐ビル  
☎0277-78-2479  
設立 1984年11月  
従業員数 153名(グル  
ープ合計)  
売上高 58億円(2016  
年度グループ見込み)  
事業内容 産業廃棄物収集  
運搬事業、汚泥・廃油及び  
医療廃棄物焼却処理業、廃  
棄物の焼却溶融処理及び人  
工砂(溶融スラグ)販売事業、  
廃油の油水分離処理及び再  
生重油(燃料油)販売事業  
<http://www.gtr.co.jp>



今年4月に完成した本社・営業本部の外観



各部門で女性社員が活躍



地元企業として毎年協賛する「やぶ塚かかし祭り」